



東京パラリンピックを見据えリポーターとして活躍中！

## 岐阜出身の後藤佑季さんにインタビュー！

プロフィール

1996年7月30日、岐阜県で生まれる。先天性のPendred症候群による難聴。障害が判明したのは2歳半のころ。家族によると勤の良い子供だったらしく、例えば「新聞をとってきて」と言われたら新聞を持ってきたりしていたため、気づくのが遅くなったそう。話し始めが遅いと感じ、検査をしたところ聴覚障害であることが判明した。

幼稚園期は「みやこ園」に一般の幼稚園と並行して通園をし、発話練習や指文字、手話を学ぶ。小学校から一種の「社会」に入るための準備だった。具体的には補聴器の電池が切れた際に「先生、補聴器の電池が切れたので変えてもいいですか？」といいに行き、実際に変える、というような練習をした。

小学校の時からは新学期になりクラスが変わるたびに、先生に時間をもらって「私は聴覚障害があります。聞き返すこともあるかもしれませんが、大きな声で、口を動かしてしゃべってもらえると嬉しいです」とクラスメイトにお願いをしていた。小学校の時には「指文字表」をクラスに貼り、指文字を覚えてもらったりしていた。

中学校に入ると、もともと足の速かったこともあり、陸上部に入部。主に100m、4×100mリレー。高校でも続ける。中高を通して東海大会には連続出場をし、大学では陸上サークルに入る。



### リポーターを目指したきっかけは？

大学進学と同時に、岐阜を離れ、上京することになりました。それまでは小さな、ある種守られた社会で、私と関わる人は大体が障害のことを理解してくれましたが、一步「社会」に近づいたとき、「目に見えない」障害を理解してくれる人が少ないことに気づきました。

大学の授業では、「聞こえない」ことがあるのを理解してもらうこと自体が難しいことが多々ありました。普通に会話ができているのに、なぜできないのかといわれるのです。

その状況にぶつかったとき、なぜ「見えない障害」はこんなにも理解されていないのだろうかと思いました。今や4人に1人が高齢者であり、今後さらに高齢化が進むといわれている日本で、「見えない障害」は決して他人ごとではないはずです。

なぜなら、年を取ると、目が見えにくくなり、耳は遠くなり、足腰は弱くなります。それは、障害とは言わなくても、同じように困ることはたくさんあるはずです。そんな中で「自分たちが向かう未来」をこんなにも考えていなくていいのだろうかと思ったのです。

そして、大学に入って興味深いデータと出会います。テレビ離れが進んでいるといわれている現代社会においても、人々の意識決定を促しているメディアの比率はテレビが圧倒的に高いというデータです。ならば、今や人口の15%は障害者だといわれている現代において、人々の意識決定を握るテレビで、出演者の15%が障害者でないのはおかしいのではないかと思いました。

つまり、そもそも露出量が少ないために、「見えない障害」について知らない人が多く、知らないがゆえに理解ができないのではないかという仮説を立てました。

そんな中でNHKのリポーター公募を知り、まさにこの仮説を、自分が表舞台に立つことで実証していけるのではないかと思ったのです。自分が出ることで、「見えない障害」について、まずは知ってもらう。そしてその先に理解があると思い、応募しました。

## 取材現場での苦労話

人工内耳の片耳装用者のため、いろいろな「難しいこと」があります。たとえば、機械が音を信号に変えて聴神経に伝えるまで、を担っているため、聞きたい音と周りの音が混ざってしまい、聞き取りづらくなります。

人間の脳は自分の聞きたい音だけを抽出し、ほかの音は自動でノイズキャンセリングしているのですが、今私が使用している人工内耳はそれが難しいのです。これは、特に選手へのインタビューの際に生じます。選手の声聞き取りたくても、周りの環境音や話し声でかき消されてしまうのです。これを防ごうと、人工内耳をつけている左耳に選手が近くなるよう自分で位置取りを工夫したり、ICレコーダーを人工内耳に直接つないで選手の声人工内耳に送ったりしています。



## 2020 パラリンピックへの思い

私は正直、パラリンピックには聴覚障害のクラスがなかったことや、ずっと通常の学校で過ごしてきたこともあり、リポーターになるまでは「パラスポーツ」について全く詳しくありませんでした。リポーターになり、取材をするにつれてその面白さと、すごさについて知るようになりました。たとえば、私が一番パラスポーツの面白いところだと思うのは「身体の特化」というところです。障害がある部分は、スポーツをするうえでどうしても弱点になります。しかしそれは同時に、相手のウィークポイント、つまり狙いどころにもなります。

このことを分かったうえで、どうかカバーするか、どう生かすか。そこがパラスポーツならではの面白さだと思います。パラスポーツだからといって、クリーンなスポーツではないのです。そこには、真剣勝負があるのです。このことを知らないたくさんの人に、自分が感じた面白さやすごさを伝えていきたいと思ひますし、パラリンピックを通じて「障害」とは何かを今一度立ち止まって考えるきっかけになればと思います。

また、聴覚障害のある人も、関わりがないとは思わず、応援したくなるようなリポートをできたらと思います。

## これからの夢

障害のある人もない人も、同じように輝いて暮らしていける社会になってほしいし、そのための一助に私が出ることになればと思います。また、「私にしかできないこと」をもっともっと増やして、自分自身ももっと輝けるようになりたいです！

後藤さんは、毎月1回NHK岐阜の「まるっと！ぎふ」に出演されています。  
またブログも執筆されておりますので、ぜひご覧になってみてください。  
ブログはこちらのアドレスから <https://bit.ly/2H1rqCC> QRコードでもOK！



## 平成31（2019）年度岐阜県要約筆記者養成講座受講生募集のご案内

**岐阜県要約筆記者養成講座** 平成31年度受講生募集！

要約筆記者とは？  
聴覚障がい者のために録音の内容の要点をつかんで短い文にまとめ、その場で文字にして伝える要約活動のことです。受講生は「手書きコース」と「パソコンコース」の2コースから選べます。

1. パソコンコース  
2. 手書きコース

岐阜県聴覚障害者情報センター  
瑞穂市総合センター（瑞穂市別府1283）等

1. 日程 平成31年4月14日（日）～平成32年1月26日（日）全24回 95時間  
12時30分～16時45分（録音機の手配など含む）

2. 定員 ①手書きコース、②パソコンコース 各20名（先着順）

3. 受講料 無料（ただしテキスト代のみ実費（3,600円予定））

4. 締切 平成31年3月28日（木）※必着

5. 申込方法 はがき又は申込書に必要事項を記入の上、郵送またはFAXにてお申し込みください。申込用紙は情報センターホームページ等で入手できます。

ホームページアドレス <https://gifudeafcenter.jp>

（申込・問合せ先）岐阜県聴覚障害者情報センター  
〒500-8384 岐阜市藪田南5-14-53 県民ふれあい会館6階  
TEL: 058-213-6786 FAX: 058-275-6066

- 会 場** 瑞穂市総合センター（瑞穂市別府1283）等
- 日 程** 平成31（2019）年4月14日（日）～平成32（2020）年1月26日（日）  
全24回 95時間
- 定 員** 手書きコース、PCコース 各20名（先着順）
- 受 講 料** 無料（ただしテキスト代のみ実費（3,600円予定））
- 締 切** 平成31（2019）年3月28日（木）※必着
- 申 込 方 法** はがき又は申込書に必要事項を記入の上、郵送またはFAXにてお申し込みください。申込用紙は情報センターホームページ等で入手できます。
- 申込・問合せ** 岐阜県聴覚障害者情報センター  
〒500-8384 岐阜市藪田南5-14-53 県民ふれあい会館1棟6階  
TEL 058-213-6786 FAX 058-275-6066  
ホームページアドレス <https://gifudeafcenter.jp/>

# 電話リレーサービスの今後は…。

ここ最近、電話リレーサービスについてメディア（テレビや新聞、SNS）などで取り上げられることが多くなってきているように感じます。昨年11月に情報センターふれあいWeekで開催した「電話リレーサービス勉強会」の中でもお話があったのですが、電話リレーサービスの制度化については、だれもが利用できる「通信」とした場合は総務省、障害者の利用する「福祉」とした場合は厚労省が受け持つと考えられており、これまではどの省庁が窓口となるかが明確になっていませんでした。



そんな中、2018年11月7日の参議院予算委員会での質疑において、首相が「電話リレーサービスは重要な公共インフラである」と答弁し、その整備については“総務省”が担当すると明言されました。

これにより、電話リレーサービスの位置づけが「障害者のため」ではなく、「誰でも利用できる」サービスということが明確になったわけです。

すでに「電話リレーサービスに係るワーキンググループ」が2019年1月24日に第1回目、2月21日に2回目が開催され、今後さまざまな内容が検討されていきます。

日本財団の電話リレーサービスのホームページにはサービスを提供している事業所の一覧が掲載されています。サービス開始当初は6つの事業所が存在していたのですが、現時点では3つの民間企業に加え、12の情報提供施設が登録されています。

また同ホームページには、電話リレーサービスは「2019年3月31日まで利用できる」と掲載されていますが、（原稿執筆時点）上記の進展を踏まえると今後の動向から目を離せませんね。

以下は電話リレーサービスを行っている事業者です（順不同）

1. アイセック・ジャパン（福井・沖縄）
2. シュアール
3. プラスヴォイス（仙台・東京）
4. 沖縄県聴覚障害者情報センター
5. 熊本県聴覚障害者情報提供センター
6. 滋賀県立聴覚障害者センター
7. 京都聴覚言語障害者福祉協会
8. 大阪ろうあ会館
9. 千葉県聴覚障害者センター
10. 札幌市視聴覚障がい者情報センター
11. 宮城県聴覚障害者情報センター
12. 福島県聴覚障害者情報支援センター
13. 長野県聴覚障がい者情報センター
14. 富山県聴覚障害者センター
15. 岡山県聴覚障害者センター

## 平成31（2019）年度岐阜県手話通訳者養成講座（前期）受講生募集のご案内

- （会場） 大垣市中川ふれあいセンター（大垣市中川町4-668-1）他
- （日程） 平成31（2019）年4月6日（土）～平成31（2019）年12月21日（土）全19回
- （定員） 20名（定員を超えた場合は抽選）
- （受講料） 無料（ただしテキスト代は実費）
- （締切） 平成31（2019）年3月20日（水）
- （申込方法） 申込書に必要事項を記入の上、郵送またはFAXにてお申込みください。申込用紙は情報センターホームページ等で入手できます。
- （申込・問合せ） 岐阜県聴覚障害者情報センター  
〒500-8384 岐阜市藪田南5-14-53 県民ふれあい会館1棟6階  
TEL 058-213-6786 FAX 058-275-6066  
ホームページアドレス <https://gifudeafcenter.jp/>



## 「わかりやすい日本語教室」平成31年1月19日

聴覚障害者にとって少し苦手意識のある文章ですが、センター利用者の方から日本語教室を開いてほしいと要望があり開催することができました。また参加者も期待していたテーマだったこともあり、終始真剣な眼差しで受講する様子うかがえました。

アンケートにも次回開催を希望する回答がいくつかありましたので、次回開催につなげられるよう講師と日程調整をし、企画を進めていきたいと思えます。

## 「己書（おのれしょ）にチャレンジ!!」平成31年2月24日

最近ブームになってきている「己書」ですが、以前からやってみたいという声があり初開催となりました。

いつも書いている文字とは書き順が違ったり、戸惑う部分もあったようですが、参加者それぞれの個性が現れた作品がたくさんできました。



## 「要約筆記体験」平成31年2月27日

最近パソコンの普及によって「文字を書く」ということが少なくなってきているかと思えます。この講座では書いて相手に伝える手段を学び、OHC ロールやノートテイク、ホワイトボードを使つての筆談などを体験していただきました。4月から養成講座も始まります。参加を検討されている方は、お早めにお申込みを!!



## 実はスマホ対応なんです!

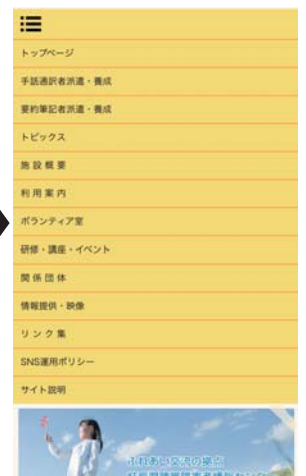
情報センターのホームページをご覧になったことありますか?

パソコンでの視聴はもちろんですが、実はスマートフォンでの視聴(閲覧)にも対応しています。各メニュー表示は左側のマークをタップすると詳細メニューが表示される仕組みになっています。

毎月開催している講座紹介の動画視聴や、申し込みもスマートフォンから可能になっていますので、ぜひご利用ください。



○部分をタップ



LINE



facebook



ブログ

左のQRコードを利用すると、情報センターのブログ、LINE、Facebookに簡単にアクセスできます。ぜひご利用下さい。

